

平成17年度 研究成果の社会還元・普及事業 ひらめき☆ときめき サイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI

大阪府立大学では、平成17年12月26日独立行政法人日本学術振興会との共同で、「研究成果の社会還元・普及事業(ひらめき☆ときめき サイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI)」を開催いたしました。

この事業は、学術と日常生活との関わりや学術がもつ意味に対する理解を深める機会を提供し、科学研究費補助金による研究成果をわかりやすく発信することを通じて、学術の文化的価値及び社会的重要性について示し、もって学術の振興を図ることを目的としたものです。

具体的には、我が国の将来を担う中・高校生を対象として、一日の実験・講演を体験することにより、知的好奇心を刺激し、心の豊かさや知的創造性を育むものです。

本学では、「食物が健康にどのように影響しているか」というテーマで、生命環境科学研究科 中野長久 教授の講演及び大学院生の指導による実験を実施いたしました。



○プログラムの実施

当日は、主催者挨拶及び日本学術振興会から本事業の趣旨説明があり、午前中は中野長久教授から食べ物と健康についての話、健康とはどのような状態を言うのか、日本食の優れていること、アレルギーや肥満に悩む若者が増えておりこれらが身体に及ぼす影響等がわかりやすく講演された。

最初は、聞いているだけであった参加生徒も、徐々に質問などを行うようになり、最後は意見交換も行った。



昼食は、教授、ポスドク、大学院生、その他のスタッフも同席し生徒と食事をした。この時間になると生徒同士も打ち解けあい活発に話が弾んでいた。

また、年齢が近いせいもあり、大学院生等に質問をする生徒も多く見かけられた。

午後は、講演している建物内にある大阪府立大学のコンピューター室を見学し、その後、実験を行った。

実験の1つは、消化酵素の働きを知るもので、可溶性デンプン水溶液が消化酵素によって消化される実験を行った。

2つ目の実験は、食品の成分を分析するもので、醤油及びポン酢の成分分析の実験を行った。



生徒たちはグループごとに別れ大学院生の指導の下、最初はなれない手つきで試験管や毛細管を使っていたが、次第に熱中し始め、解らないところは熱心に質問するなど、和気藹々の中にも真剣に取り組んでいた。

実験が成功したグループからは、歓声が出るなど充実した時間を過ごしていたと感じた。また、指導している大学院生も苦勞が報われ自分のことのように喜んでいた。

実験を終えて、クッキータイムのフリートークでは、全員が一つのことをした充足感からか、多くの生徒が活発に発言していた。特に、同じグループ内ではより活発に意見交換が行われていた。

プログラムの終了にあたり、未来博士号の賞状が参加者全員に授与された。

本プログラムに関わった全員が、参加した生徒が、本当に未来の博士となり日本の将来を担ってくれることを願い、記念撮影後解散した。

一日を振り返って、生徒たちが熱心に講演を聴き、実験に熱中している姿を見ると、本プログラム開催の目的は、十分に達成できたと感じたところである。

